



●発行：宗教者9条の会・大分 ●〒879-5102 由布市湯布院町川上 3561 見成寺 TEL 0977-84-2257 FAX 0977-84-5203

# 広島・幕張「9条ピースウオーク」に参加して

天台宗 西子寺 寺田豪淳

昨年5月のピースウオーク（広島・長崎）に参加し貴重な経験をさせて頂きました。歩くことはたいへんシンプルですが、ものありがたさや、他者の思いがひしひしと感じられたいへんよい経験をさせて頂きました。

今年も妙法寺の加藤上人からお声をおかけ頂き、3日間ですが、京都から滋賀を一緒にさせて頂きました。

今回のピースウオークに参加されたアメリカ人は8名、その中のイラク帰還兵 Ash Yrie Woolson さん（26歳）がいま

した。金髪で明るく友好的なアメリカの若者といった感じがですが、アメリカの軍服の背中に「平和好き」と書いて歩いていきます。自分の戦争体験から、もう二度と戦争が起きないようにしたいという強い気持ちからだとすうです。

3月24日、京都のカトリック教会での交流会のメッセージです。ご一読頂ければ幸いです。いお便りしました。

私は1999年よりナシヨナルガードに入りました。アメリカでは軍役に就くと学費の免除

戦争は 勝者にも  
敗者にも 利益を  
与えるものではない

## 日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



があるので、大学で写真家になる勉強をしたがために軍に入隊しました。入隊当初は自然災害時などのレスキュー隊として入隊したのですが、イラク戦争が始まると、イラクに派遣されることになりました。2003年の5月より1年間現地にいたのですが、現地では軍の要人警護などが主な任務でした。ある日、軍のキャンプ地から移動の間に、アメリカ軍のトラックが

一人の少女と、2匹のヤギを轆いてしまいました。そこでその賠償として少女の両親にお金を支払ったのですが、その金額は少女に対して200ドル。ヤギ一頭に対して400ドルというものでした。なんと、軍は少女に対してヤギの半分の額しか支払わなかったのです。イラクでの移動中は、車に近づいてくる子どもには常に銃口を向けるように指導されていました。子どもが車や戦車の下に手榴弾を投げ込むかもしれないからという理由からです。

私は実際にイラクで人を殺したわけではありませんが、もうこんな思いは二度とたくありません。アメリカにいるイラク戦争の帰還兵は、帰国しても精神的な病で苦しんだり、その苦しみのために自殺したりしています。戦争は勝者にも敗者にも利益を与えることのないものです。

私はこの日本の世界に類を見ない「平和憲法」を世界の憲法とすべく、日本の皆様と世界平和のために歩きたいと思えます。

## 「日本の国際貢献に軍事はどこまで必要か」を巡って 日野詢城 記

2008年5月10日、東京外国語大学教授の伊勢崎賢治さんをお迎えし、第4回の公開講座を開催致しました。大分で「平和構築・紛争予防座長」をつとめておられる伊勢崎さんは「国際NGOに身を置きアフリカ各地で活動の後、東チモール、シエラレオネ、アフガニスタンで兵士たちの武装解除を成功させた」といいます。

今回は、紛争地域でどのようにして武装解除を成功させたのか、紛争地域の現場はどのような状況にあるのかなどをお聞きすることが出来ました。講演会のテーマは「日本の国際貢献に軍事はどこまで必要か」というもので、世界の現実、日本の現実を立てば「軍事は必要ではないとは言えない」というショッキングな発言も見られました。微妙な表現ではありませんが、「必要ではないとは言えない」という背景には、アフガニスタ

ン、北部同盟の武装解除に伊勢崎さんと共に日本の自衛官が(非武装・所謂まるごしのかたちで)交渉にあたった経験があるからだと思えます。起きてしまった戦争を早期に終結させるために(市民の犠牲を少しでも少なくする)取った措置だといいますが、結果は思惑どおりにはいかなかったといえます。

結果の如何に関わらず、9条の「武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」という基本的な原則に反していないかという疑惑を感じるのは私一人でありましょうか。まるごしだとはいえ、日本の自衛官が交渉に立ち会うことが「威嚇にならないのか」ということであります。インド洋での給油活動は600億円だと言います。このことが9条に抵触しないのかということが議論されているそのただ中で、平和

交渉という名でどちらかの軍に国家(自衛官)が直接関与することが、9条の精神にそぐうものなのか?『芸報16号』で公演の骨子をお知らせすることになりますので、そこらを丁寧に見ていきたいものだと思います。

10年あまり前になります。私は韓国の『元慰安婦問題』に関わりを持ったことがあります。韓国国内でもタブー視されていたこの問題を知ったのは20年ほど前、問題が表面化したのは、日本の国会答弁が直接のきっかけとなりました。90年6月この問題に国が関与したか否かが問われたわけです。日本政府は軍と国の関与を否定し「民間業者が連れて歩いたもの」と答えました。このニュースに憤り、被害者として初めて名乗り出たのが韓国の金学順さんでした。その後何人かの人々が名乗りをあげるわけですが、日本における裁判の結果を含め、今なお明確に国の責任は認めていないのが日本政府の態度だと言えます。「アフリカでは10万人が殺

されない」と国連は動かない」という国際社会の命の重さに関わる軽重の問題は、巻頭・寺田豪淳さんの報告にあつた、車に轢かれたイラク人の少女の場合も同じなのであります。事故の処理でアメリカ軍が支払った賠償金額はヤギの半値の200ドルであつたと言います。人種や民族への差別や偏見は、利益の支配権を巡る戦争に付きものであり、幾つもの国の民衆はその惨禍におびえています。

そのようなことを踏まえながら、伊勢崎さんが提案した『予防的援助・予防する責任』が私たちにすることは明白なのであります。かつての帝国憲法下に繰り広げられた台湾や朝鮮そして中国・アジア諸国への日本の攻勢は、紛れもなく繁栄のための権益の拡張であり、それを支えたのは民族蔑視の思想であり、近隣諸国の共栄という虚言であつたといえます。

アジアでの民族蔑視はやがて自国民にも向けられ、軍馬一頭より兵士一人が軽く見られるようになります。戦争とは

そういうものであり、現場はそういう事態の中で動いているのだと思えます。

「憎悪の連鎖を止めるためには怨みを棄てねばならない」というのは自尊の言葉であります。伊勢崎さんが最初に関わりをもつたのは、アメリカのルワンダの内戦だといえます。60年代から続いていたフツ族とツチ族の争いを一気に加速させたのはFM放送だという報告もショックでした。メディアによって憎悪が憎悪を増幅させ「殺せ」という煽動が80日間で80万人の虐殺を起こさしたというので

す。この度の講演会は「私たちに今何が出来るのか」という問いを突き付けられたということになるのかと思えます。「殺せ」という煽動に飲み込まれない心、一人ひとりが同じ人間であることなど、先ずは宗教者として人間が人間であることの原点を確かめていかねばならないな...と。提起された問題を少しずつたずねてみたいと思えます。

# 大分合同新聞(朝刊)

## 「紛争後の対応 より予防必要」

### 宗教者9条の会講演会

宗教者9条の会・大分(日野詢城世話人代表)は十日、大分市のコンパルホールで講演会を開いた。

東京外国語大学大学院地域文化研究科の伊勢崎賢治教授が「日本の国際貢献に軍事はどこまで必要か」と題して講演。市民ら約四十人が聴講した。伊勢崎教授は、戦後復興のため、アフガニスタンの軍閥を武装解除させた経験などを語り、「武力で平和はつくれないが、武力が必要な局面はある」と強調。紛争後の対応より、紛争を防ぐことの大切さを訴え、「憲法九条を持つ日本は中立的な国と信頼されている。これを生かして予防的援助を進めることが必要だ」と指摘した。

## 感想文

・民主化する上で新たな問題が生じてしまう経過が理解できませんでした。DDRの中での行動、実際に活動された方の話には大変感銘しました。

・援助の必要と方法。本当に難しいですね。人間の弱さをお願いします。地球はどうなるのでしょうか。ご苦労様です。予防のために、戦争を止める努力に頭もお金も使いたい。ありがとうございます。

・もっと出席者が増えなければと思います。講演会がある旨、多方面に伝えたらよいが。

・もっと若い人や多くの人に聴いてもらいたい講演でした。勿体ないの一言。もっと広報や呼びかけを考える必要があったのではないのでしょうか。(呼びかけられ

たのかも知れませんが)

・努力して講演会を計画して下さっていることに感謝しています。でも今回は余り本質に迫ったものとは思いません。昨年よりもすっきりしない内容です。

・伊勢崎さんの実体験に基づく貴重な話と国際情勢について聞くことが出来有難う御座いました。今日聞いた話をみんなに伝えていきます。また貴会の地道な活動に敬意を表します。さて、今私たちはこの秋の11月未

までに自公が成立をアメリカに約束した自衛隊をいつでも海外派遣できる「国際平和協力法」(自衛隊海外派兵恒久法)に反対する活動をしています。同法案は

実質的に憲法九条を改悪することになり、イラク戦争などでも、米軍などとともに敵の掃討作戦が出来るようになっていきます。この自衛隊海外派兵恒久法に反対

する運動を共にしていきたい。なお、国連の言う集団安保と集団的安保は全く性格が異なることを理解不足との感じを少ししました。

・残念ながら9条を守るための決意が生まれてこない。ミスキャストかな。自分がぼけたのかな。

・興味深く、具体的な語りで、今起きている紛争の内容がよくわかりました。単に9条を守れとだけ言って

いられないんだなと思えました。

・今日ありがとうございます。知らない事などがあったのでよかったです。平和とは難しい道のりですね。

・うーん、家に帰ってまたゆっくり講演の内容を考えてみます。

・深いところで、リアルに9条の果たす多面的な役割と紛争の実体などがよく解った。

## 大江健三郎 講演会

### 「人間らしさ」を育てる

### 憲法と私の経験

日時 7月13日(日) 開場午前10時

会場 白杵市民会館

前売り 大人1000円(当日1200円)

学生 500円(当日700円)

連絡先 電話090-5725-6187(奥田)

戦争をしない日本★戦争のない世界へ  
九条の会・うすき

### 反戦を貫いた僧 竹中彰元師

竹中彰元師は、1867年（慶応3）真宗大谷派大垣教区第11組明泉寺に生まれた。

向学の志強く、安居、哲学館（現東洋大学）、真宗大学や漢籍塾、京都仏教会などで学んだ後、本山特命布教使として全国的に活躍した。



「調書」所蔵：大垣教区 明泉寺

日中戦争が始まって2か月後の1937（昭和12）年9月15日、出征兵士を見送る途中「戦争は罪悪であると同時に人類に對する敵であるから止めたがよい」（『特高外事月報』）、同年10月10日の寺院の法要の席で、「此の度の事変に就て他人は如

何考へるか知らぬが自分は侵略の様に考へ

る」（『特高外事月報』）、「戦争は沢山の彼我の人命を損し悲惨の極みであり罪悪である。」（『予審終結決定』）と語られ、戦争の本質を「罪悪」と見抜き、人間が人間のいのちを奪う戦争に強く反対した。

これらの言動により逮捕、起訴され、「陸軍刑法第2条第99条刑法55条（流言飛語罪）」に該当するとして、禁固4月執行猶予3年の実刑判決を受けた。

これを受け、真宗大谷派宗門も1938（昭和13）年11月18日、「軽停班3年（衣の色や法会の際の着座順位を最下位とする）の処分を下し、布教使の資格を剥奪した。

国内が戦争一色に染まっていた当時の社会状況の中で、反戦の態度を表明し、当時の陸軍刑法により有罪となり、宗門から処分を受けながらも、その志願を曲げることはなかった。

敗戦を迎えた1945（昭和20）年10月21日に亡くなられた（享年77歳）。

竹中彰元師復権顕彰大会パンフレットより（2007年10月19日）

### 『今を語ろう』連続談義

この学習会は、公開討論会の形を取りますので多数の参加者を募集し、自由な意見交換を求めます。

第八回 7月17日（木）2時より

テーマ 総会ならびに意見交換会  
大分キリスト教会

大分市城崎町2-6-12

電話 097-532-4240

### 宗教者9条の会・大分事務局

〒879-5102 由布市湯布院町川上3561 見成寺

TEL 0977-84-2257  
FAX 0977-84-5203  
年会費 3,000円

郵便振替口座 01720-1-111731

年会費納入・カンパを  
よろしくお願ひします。



### 編集後記

自ら「紛争屋」と称する伊勢崎賢治さん。

伊勢崎さん。といつても小銃を携え、鎮圧に向かう傭兵でももちろんない。丸腰で紛争の渦中に飛び込み、武装解除等（DDR）の仕事をしている。

彼の講演は、スクリーンに映し出されたルワンダの虐殺映像からはじまる。フツ族によるツチ族の虐殺。1000日間で80万人が、銃などの武器ではなくナタや棍棒で撲殺される。現場を視察したロメオ・ダレール司令官はマイルドな軍事介入を国連に要請するが、軍は動かなかった。死者は120万人に及んだという。

（国連は通常アフリカでの軍事介入は10万人の死者を越えた時点で発動される。ルワンダに関して国連の官僚主義化の問題があると彼は指摘する。）

ダレールは帰国後、自殺未遂するまで追い込まれたという。

伊勢崎もかつて治安維持に身を投じたシエラレオネでDDRに従事することになる。

内戦の平和は、少年等の手足を（5万から50万ともいわれる）切り落とさせた

反政府ゲリラのボス、フォディ・サンコウを副大統領に就任させることで、成立した。

お釈迦様の教えに「憎悪の連鎖を止めるためには、怨みを捨てねばならない」とある。シエラレオネの和解は、その教えにそったものであると単純に考えることは出来ない。

伊勢崎は次のように述べている。

「生き残った人々は、和解に人間的な価値を見出し、和解するのではない。和解を善行として、和解を受け入れるのではない。『復讐の連鎖』を心配するのではなく、『絶望』から和解するのだ。『それでも、せめて首謀者だけは裁いて欲しい、というのが、絶望の中にある。』という生活を生きて、民衆の唯一の願いだろ」（伊勢崎賢治『武装解除—紛争屋が見た世界—より）

（つづく）

※DDR  
Disarmament（武装解除）、Demobilization（動員解除）、Reintegration（兵士の社会復帰）の略。

ゲリラや軍閥と交渉し、武器を捨てさせ、部隊を解体し、そして兵士を社会復帰させるまでのプログラム